



山岡 勇太

自然の博物館では令和6年10月26日(土)から令和7年2月24日(月)まで、企画展「長瀬自然遊覧」を開催しました。本企画展は、国の名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年を記念して開催したもので、長瀬の特徴的な岩石や動物を展示し、自然史的な観点から長瀬の楽しみ方を紹介しました。

第1章 名勝・天然記念物 長瀬

大正13(1924)年12月9日、美しい溪谷の景観や露出する岩石が学術的に貴重である点が評価され、旧親鼻橋から高砂橋にかけての荒川沿い約4kmの範囲が、「長瀬」の名称で国の名勝及び天然記念物に指定されました。

長瀬溪谷を形づくるのは、結晶片岩と呼ばれる変成岩の一種です。今からおよそ7,000万年前、海洋底の岩石がプレートの沈み込みに伴って地下深くに引き込まれた際、高い圧力と熱を受けることで結晶片岩に変化しました。その後、結晶片岩は地殻変動によって上昇し、荒川の流れることによって侵食された結果、地表に顔を出しました。結晶片岩には、薄く剥がれやすい性質(片理)と規則正しい割れ目(節理)があるため、独特の景観が生まれます(写真1)。岩畳に代表される長瀬の溪谷美は、結晶片岩の性質と荒川の流れるが作り上げた絶景といえます。

明治時代、長瀬を含む秩父地域は、地質学研究的の聖地として有名でした。明治44(1911)年に鉄道が開通すると、多くの地質学者や学生がこの地を訪れました。中でも東京帝国大学教授の神保小虎は、学生と共に長瀬を頻りに訪れており、長瀬の名勝及び天然記念物の指定や、当館の前身と

なる「秩父礦物植物標本陳列所」の設置にも携わりました。大正13(1924)年に国の名勝及び天然記念物に指定されると、長瀬の名が広く知られるようになり、結晶片岩が作り出す溪谷美が魅力の観光地として、その地位を確立していきました。

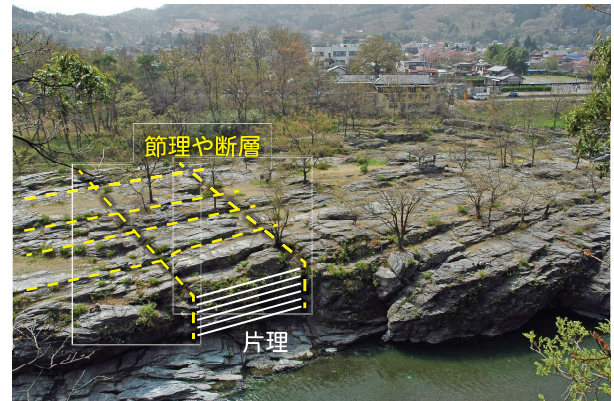


写真1. 対岸から見た岩畳。片理と節理(断層)に沿って結晶片岩が侵食されることで、畳を敷き詰めたような独特の景観が生まれた。

第2章 長瀬の生きもの

長瀬の一带は、かつて荒川に削られてできた河成段丘であり、荒川に向かって階段状に低くなっています。岩畳など低い場所は明るく開放的である一方で、高い場所は木々が生い茂る河畔林となっています。かつて荒川が流れていた旧流路は、周囲より深く削られたため、現在は池や沼になっています。このように、長瀬には荒川が作り出した様々な環境があり、そこにはそれぞれの環境に応じた多様な生きものがくらしています。

例えば岩畳は、夏場の厳しい暑さや洪水など影響を受けることから、生きものにとって過酷な環境と言えます。このような環境には、しなやかな枝で増水に耐えるユキヤナギ(写真2)や、乾燥した栄養の少ない環境に強いフジやテリハノイバラなどの植物が見られます。また岩畳の周辺には、四十八沼をはじめ荒川が作る多様な水辺があります。そのため、幼虫時代を水中で過ごすトンボの仲間が数多く見られます。秋には、10種類を超えるアカトンボの仲間を見ることができ、中でもキトンボ(写真3)は、県内でも観察できる場所が限られる希少なトンボです。

一方、洪水時にもめったに水の被らない高い場所では、木々が成長して河畔林をつくっています。埼玉県の木としても知られるケヤキや、細長いド

ングリをつけるコナラなど、多様な木々を観察することができます。こうした河畔林には、ムササビなどの木々を利用する哺乳類や、樹洞を利用するアオバズクなどの鳥類がくらしています。



写真 2. ユキヤナギ



写真 3. キトンボ

第3章 長瀬のこれから

名勝及び天然記念物指定から 100 年が経ち、長瀬の自然環境は大きく変化してきました。温暖化のような大きな規模の変化があれば、上流におけるダムの建設や外来種の移入など、社会的な要因による変化もあります。特にダムの建設による洪水時の水かさの減少は、植生に大きな影響を与えました。明治から昭和初期に発行された写真や絵はがきには、岩肌が広く露出した本来の長瀬の風景が写っています。しかし現在は、クヌギやケヤキなどの高木が入り込んで成長し、かなり異なった様相になっています（写真4）。



写真 4. 岩畳における植生の変遷。上：大正 12 年～昭和 21 年間に発行（推定）された絵はがき（カラー復元）、下：同様のアングルから撮影した現在の岩畳。

また、外来種も数多く侵入しており、環境の単純化を招いています。名勝及び天然記念物としての価値を後世に残すためには、指定時の文化的価値を改めて見つめ直し、それを維持したり失われた価値を再生させたりするために、人が手を加えることも時には重要であると考えられています。

第4章 長瀬自然遊覧のススメ

本章では、長瀬の自然史的な魅力を実際に現地体験してほしいという思いから、野生動物の痕跡の探し方や、おすすめの散策コースを紹介しました。普段はなかなか姿を見られない野生動物ですが、野外に残された痕跡（フィールドサイン）をたどれば、どのような動物が生息しているかが分かります。例えば、河原の砂地にはタヌキの足跡が残されていたり、アカマツ林の林床にはムササビが食べたエビフライのような松ぼっくりを見ることができます。本章の最後には、おすすめコースの紹介と合わせて、散策のお供に使えるパンフレット「お散歩ガイド 長瀬自然遊覧」を配架しました（写真5）。



写真 5. パンフレット「お散歩ガイド 長瀬自然遊覧」

おわりに

県内有数の観光地として有名な長瀬ですが、その背景には、長い時間をかけて自然がつくり上げた美しい景観や、そこにくらす動植物の営みを垣間見ることができます。本展示を通して、それらの魅力を感じていただければ幸いです。

（やまおか ゆうた・学芸員）